

※クリックすると記事のページを開きます。

①冬季プログラム（2018 年度） .....	2
-概要.....	2
-海外インターンシップ報告会 .....	4
-卒業生講演会 .....	6
-日本語講座.....	8
-学外研修 .....	17
-日本文化体験.....	21
- 1 Day インターンシップ .....	24
②冬季プログラム（2019 年度） .....	27
-概要.....	27
-日本語講座.....	29
-学外研修 .....	42
-日本文化体験.....	47

## ①冬季プログラム（2018年度）

### -概要

2018年度より、受入学生と派遣を予定している日本人学生を対象に、冬季プログラムを実施しました。実施期間や内容等は以下の通りです。

1. 実施期間： 2019年1月～3月

2. 実施内容：

(1) 日本人学生対象プログラム

(2) 留学生対象プログラム

3. 日本人学生対象プログラム日程

日付	内容
1月23日（水）	海外インターンシップ報告会（11:50-13:00）28名参加
1月30日（水）	卒業生講演会（16:00-17:30）32名参加

4. 留学生対象プログラム日程

日付	内容
1月31日（木）	日本語講座（8:30-11:40）
2月1日（金）	日本語講座（8:30-11:40）、立川防災館見学（12:45-17:20）
2月4日（月）	日本語講座（8:30-11:40）
2月5日（火）	日本語講座（8:30-11:40）、ソニー本社見学（13:00-17:30）
2月7日（木）	日本語講座（8:30-11:40）
2月8日（金）	武蔵野クリーンセンター見学（8:45-11:50）
2月12日（火）	日本語講座（8:30-11:40）、折り紙体験（13:00-15:30）

2月14日(木) 日本語講座(8:30-11:40)、ホームビジットオリエンテーション(11:40-12:20)

---

2月15日(金) 茶道体験(9:30-11:20)、着付け体験(13:00-16:00)

---

3月2日(土) ホームビジット

---

3月27日(水) 日立建機・土浦工場見学(10:10-19:10)

---

・日本語講座 | 本学で日本語について研究している大学院生を講師として実施しました。また、各国語を学ぶ日本人学生もチューターとして参加しました。

・学外研修 | 立川防災館と武蔵野クリーンセンターで実施しました。

・日本文化体験 | 折り紙、茶道、着付けの体験を実施しました。茶道体験は、本学表千家茶道部にご協力いただき実施しました。

・1Day インターンシップ | ソニー本社および日立建機の土浦工場で実施しました。このプログラムは世界展開力強化事業(ロシア)コーディネーターの新井滋特任教授に調整していただき、他の世界展開力強化事業と合同で実施しました。

## 5. 留学生対象プログラムの参加学生

(1) 長期受入 ISEP 生 10 名 (ミャンマー3 名、ラオス 4 名、カンボジア 3 名)

(2) 大学院受入学生 1 名 (ラオス)

(3) 国費研究生 2 名 (ラオス)

世界展開力強化事業 (ASEAN) コーディネーター

寺井淳一記

## -海外インターンシップ報告会

日時：2019年1月23日（水）11時50分～13時

場所：東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟 113 教室

### プログラム

- I. 開会の挨拶 | 鈴木玲子教授・事業責任者
- II. 海外インターンシップ経験者による報告・質疑応答
  1. 奥野初音 | ラオス語専攻 3 年（インターンシップ先：エイチ・アイ・エス）
  2. 竹内駿平 | カンボジア語専攻 3 年（インターンシップ先：国際開発救援財団（FIDR））
  3. 原 礼実 | ビルマ語専攻 4 年（インターンシップ先：JAPAN SAT CONSULTING Co., Ltd）
- III. 閉会の挨拶 | 寺井コーディネーター

### 概要

ミャンマー、ラオス、カンボジアで海外インターンシップを経験した本学学生による報告会を開催しました。インターンシップ先が観光業やコンサルティング業や NGO、期間も 3 週間から 1 年間という多彩な内容となりました。参加者からはインターンシップ先の見つけ方や 1 日の業務時間、インターンシップ期間中の住まいや研修中の業務内容などについて具体的な質問がたくさん出ました。参加者の積極的な態度や 30 名弱という参加人数からは、学生のインターンシップに対する関心の高さが窺えました。

参加者にとって、今後のインターンシップ活動の参考になったと思います。また発表者からは、こうしたインターンシップの経験が就職活動にプラスに働いたという報告もありました。終了後のアンケートでは、インターンシップに関する具体的なイメージが湧いた、発表者の行動力に感動したなどの意見が多く、大変有意義な報告会となりました。



30人弱の参加者が集まり、積極的な質疑応答が行われました



【ミャンマー】原 礼実さん

期間 | 2016年10月～2017年9月

インターンシップ先 | JAPAN SAT CONSULTING Co., Ltd.  
(コンサルティング会社)

内容 | ミャンマー国内向け人材紹介



【ラオス】奥野初音さん

期間 | 2018年3月12日～2018年3月30日

場所 | HIS ルアンパバーン支店

目的 | ①観光業を学ぶ②ラオス語を学ぶ



【カンボジア】竹内駿平さん

期間 | 2018年7月31日～2018年8月24日

インターンシップ先 | 国際開発救援財団 (NGO)

内容 | KPSP クラチエ州立病院小児外科プロジェクトにおいて  
非医療従事者として衛生的な病院の実現に貢献

## -卒業生講演会

日時：2019年1月30日（水）16時00分～17時30分

場所：東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟 226 教室

プログラム：本学卒業生による講演および質疑応答



1| JICA 戸谷幸一 氏

独立行政法人国際協力機構安全管理部安全対策第一課 課長補佐/北中南米班長

「開発途上国での仕事 ラオスと全世界を相手に」

2| JETRO 石川雅啓 氏

独立行政法人日本貿易振興機構 お客様サポート部貿易投資相談課

「外大生が国際社会で求められること 東外大の4.5年、JETROの20年」

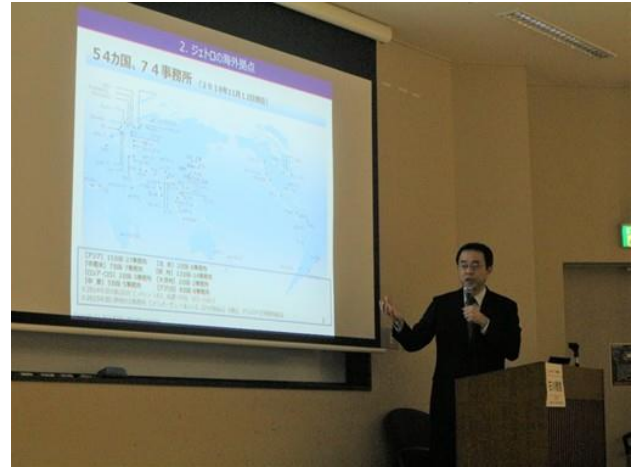
### 【概要】

現在 JICA・JETRO でご活躍されている本学卒業生をお招きし、開発途上国での仕事に興味のある学生、東南アジアへの留学やインターンシップを考えている学生等を対象に講演会を実施しました。講演者お二方の大学時代・就職活動・現在の仕事内容について写真や資料を交え説明していただき、最後にこれから社会に出る本学学生に対し、同じ大学で学んだ先輩ならではの視点からアドバイスをいただきました。学生時代や就職活動での失敗談など、この講演会でしか聞くことが出来ない内容までお話しいただき、聴講した学生は質疑応答で積極的に質問をしている姿が印象的でした。また、講演会終了後も講演者のもとに質問に来る学生の姿が多くみられ、海外で働くこと、JICA・JETRO に対する関心の高さが窺えました。

当日は 30 人以上の学生や保護者の方にお越しいただきました。終了後に参加学生に提出していただいた感想の中には、現地語を学ぶ意義を再認識してモチベーションが上がった、これからの就職活動の参考になったなどの回答が多く、今後の学生生活に対する指針を得た学生が多かったようです。これからもこのような機会も設けていきたいと思えます。



JICA 戸谷幸一氏による講演の様子



JETRO 石川雅啓氏による講演の様子

## -日本語講座

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、長期休暇中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として実施しました。本報告では、そのうちの日本語講座について紹介します。

本講座の講師として、本学で日本語について研究している大学院生にお願いしました。本講座が対象としたのは、本事業で受け入れているミャンマー、ラオス、カンボジアからの交換留学生 10 名とラオス人の大学院生 1 名と研究生 2 名でした。日本語の習熟度に大きな差が見られたため、クラスを初級と中級に分けて実施しました。また、参加学生の理解を助けるため、交換留学生には全員に 1 名ずつ各国語を専攻する日本人学生をチューターとして配置しました。

テキストとしては、以下の 2 冊を使用しました。

初級：

独立行政法人国際交流基金編著. 2013.『まるごと: 日本のことばと文化 入門 A1』三修社.

中級：

秋山信子・坂本舞著. 加藤早苗監修. 2012.『Weekly J: 日本語で話す 6 週間 book1』凡人社.

授業の構成は、1 限（8:30-10:00）にテキストのテーマに沿ってチューターと共に発表内容を日本語で作成し、2 限（10:10-11:40）の冒頭でそれを発表、残りの時間に日本文化を紹介するというものでした。以下に、7 日間の取組内容を担当講師のレポートに基づいて紹介します。

1 日目（1 月 31 日）

### 1 限

- （1）オリエンテーション
- （2）自己紹介（名前、出身国、出身地、日本で好きなもの）
- （3）初級と中級に分かれ、発表内容の作成

初級：テキスト第 3 課「どうぞよろしく」第 4 課「かぞくは 3 人です」を使用

中級：テキスト Unit 01「がんばりますので、よろしくお願いします。」を使用

## 2 限

発表テーマ：自己紹介（初級：家族、中級：しようと思っていること）

講師の感想：感心したことは、10 月から初学者として学習を始めたというカンボジアの学生たちが、とてもきれいな字で立派に文を書き、発表してくれたことでした。ミャンマーの初級の学生が一日の長で、何も見ずに上手に話していました。中級になると、皆メモを見ることもなく上手に発表してくれました。このスタイルを7日間行いましたが、いつも皆、真面目に積極的に取り組んでくれました。



授業風景

### 日本文化紹介

正月にちなんで、年賀状と干支を説明し、書初め、双六やかるとをしました。

・年賀状と干支：年賀状を見せて、十二支の動物を説明。プリントの十二支の動物に名前を記入。自分が何年か考える。

・書初め：筆ペンを使用。縦書きや書き順について説明。



書初めの様子

講師の感想：スマホでわざわざ難しい字（十二支の中の鼠、漢字を当てた自分の名前など）を調べて書くなど、難しいことに挑戦しようとする気持ちが伝わってきました。



学生の作品一覧

・双六、かるた：初級の学生は語彙がまだ少ないので、ひらがなに果物のシルエットがついた簡単なかるたを用意しました。中級の学生には都道府県かるたや諺かるたを用意し、日本人学生に読み手を務めてもらいました。

2日目（2月1日）

## 1 限

授業冒頭で、昨日質問を受けた「ハ」と「ガ」の使い方について共有しました。

例) 英語ができます。フランス語はできません。

その後、初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第5課「なにがすきですか」を使用

中級：テキスト Unit 04「浅草のお寺は1400年前に建てられたんですよ。（自分の国のお勧めの場所・物を紹介する）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：自分の朝ごはん

中級発表テーマ：自分の国の観光地について、どんなところか、何があるか、名物は何か、何をすることができるかなど  
ラオス、ミャンマーの観光地について、写真なども使いながら、いろいろな名所や名物を紹介してくれました。

## 日本文化紹介

・節分：「鬼は外、福は内」を説明し、豆と鬼のお面を使って、簡単に体験してもらいました。

・歌「幸せなら手をたたこう」：日本語の歌を覚えながら、基本的な文型の学習もできるように選曲し、YouTubeを利用して歌の練習をしました。また選曲には『歌って覚える日本語』（凡人社）を参考にしました。「幸せなら手をたたこう」（意志形）では、体の部位の名称を確認しながら、意志形・勧誘形について説明しました。

講師の感想：この歌はジェスチャーを含むので、とても楽しそうに歌っていました。



発表の様子



「幸せなら手をたたこう」を歌う様子

3 日目（2 月 4 日）

## 1 限

授業冒頭で、昨日質問を受けた形式名詞コトとモノの使い方について共有しました。

その後、初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第 9 課「なんじにおきますか」第 10 課「いつがいいですか」を使用

中級：テキスト Unit 02「初めて日本人と話したとき、ドキドキしました。（いろいろな気持ちを表現する）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：毎日何時に何をするか

中級発表テーマ：初めて何かを経験した時のこととその時の気持ち

講師の感想：印象に残った発表は、駅に貴重品が入ったかばんを忘れたことに気がついた時の話でした。

## 日本文化紹介

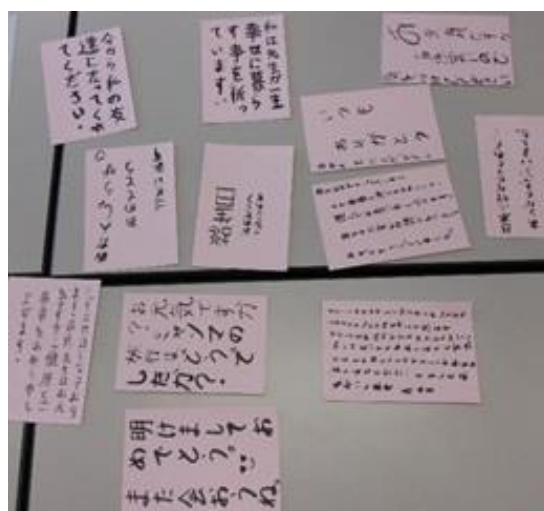
・歌「つばさをください」：歌詞の意味を確認しながら、「N がほしい（です） / （N を）V-てください」の文型を説明しました。

講師の感想：メロディーが美しく、楽譜を配り二部合唱をすると、思わずみんなから拍手が沸き上がってきました。

・書道：はがきに筆ペンで書く練習をしました。



「つばさをください」を歌う様子



「学生の作品一覧」

4 日目 (2 月 5 日)

## 1 限

授業の冒頭で、昨日質問を受けた「地震が起きないかどうか心配です」は「地震が起きるかどうか心配です」といえるかどうかについて共有しました。

その後、初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第 7 課「へやが 3 つあります」第 8 課「いいへやですね」を使用

中級：テキスト Unit 03「お金が足りるかどうか、心配でした。(こんなとき、どうする?)」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：自分の部屋

寮の自分の部屋にあるものや、見える景色などについて説明してくれました。

中級発表テーマ：今まで心配だったこと、いま心配なこと

大学院への進学など、心配していることについて話してくれました。

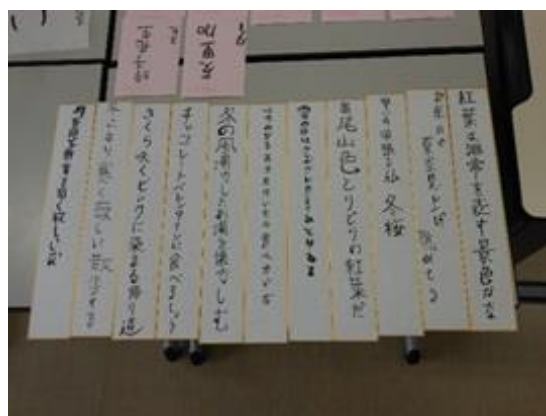


句会の様子

## 日本文化紹介

### ・俳句

有名な俳句のうち簡単なものを紹介し、五七五という音の数や季語について説明しました。そのあと、留学生に句作に挑戦してもらい、各自考えた作品を筆ペンで短冊に書いて、無記名で提出してもらいました。それらを板書し、各自好きな作品を 3 つ選ん



俳句作品一覧

でもらい、得点の高かった句の作者を発表しました。句会を真似て実施しましたが、なかなか好評でした。高得点の作品には、「冬の昼あたたかいもの食べたいな」「さくら咲くピンクに染まる帰り道」などがありました。

講師の感想：初学者には難しいと思われましたが、意外にも早く句を作っていました。

5 日目（2 月 7 日）

## 1 限

初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第 11 課「しゅみはなんですか」第 12 課「いっしょにいきませんか」を使用

中級：テキスト Unit 05「漢字の読み方がわからないんですが...。（方法をたずねる・わからないことを聞く）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：自分の好きなこと、趣味

中級発表テーマ：街や雑誌で聞いたり見たりした分からない言葉、そしてそれを日本人に教えてもらった際の感想

講師の感想：「合コン」「追いコン」「たるい」などの若者言葉や俗語を挙げた学生がいました。また「デジカメ」「メルアド」などの略語に 4 音が多いことにも注目していました。

## 日本文化紹介

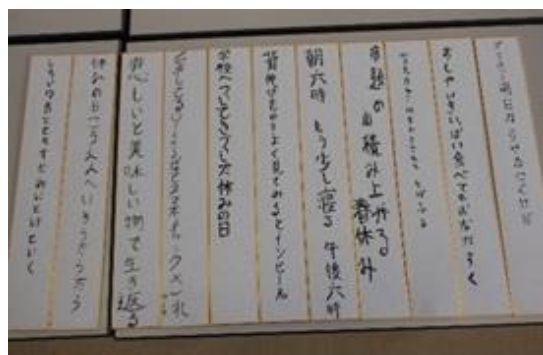
・歌「北の宿から」：歌詞を説明し、授受表現「着てはもらえぬセーター」について解説しました。

講師の感想：演歌の世界に戸惑う学生もいましたが、中には都合の歌唱力に感心している学生もいました。

・川柳：川柳について説明し、俳句と同様に川柳を作ってもらいました。俳句のときとは異なる学生の作品が票を集め、高得点だった作品に「朝六時もう少し寝る午後六時」「学校へ着いて気付いた休みの日」などがありました。



演歌を歌う様子



川柳作品一覧

6 日目（2 月 12 日）

## 1 限

初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第 12 課「いっしょにいきませんか」第 13 課「どうやっていきますか」を使用

中級：テキスト Unit 06「やったー! 勝った! (状況を聞く)」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：ウチからどこかまでの行き方の説明

中級発表テーマ：自分に何か困ったことなどが起きた時の状況

講師の感想：印象に残っている話として、コンビニの会計時に財布を忘れたことに気づいた話などがありました。

・作文集の準備

今までに発表した内容、書いた内容から一つを選んでもらい、原稿用紙に清書してもらいました。それを印刷して、最終日に作文集として配りました。その際に、6 日目にグループごとに撮影した写真も添えました。



日本語学習の様子

## 日本文化紹介

・文楽：You Tube の動画「5 分でわかる文楽」シリーズ（NPO 法人 人形浄瑠璃文楽座作成）を利用して、文楽について紹介しました。



文楽の紹介

講師の感想：人形の仕組みや動きに感嘆の声を上げる学生も

いましたが、義太夫や三味線の部分が少々長く、また部屋を暗くしたこともあって、眠気を催してしまった学生がいたことが反省点でした。

7日目（2月14日）

### 1限

この日は最終日ということもあり、留学生に先生となってもらい、「各国語ミニミニ講座」と題して各国語のあいさつ言葉を教えてもらいました。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」を各国語で板書してもらい、発音してもらいました。

講師の感想：それぞれの文字の美しさや合掌の挨拶に感銘を受けました。

その後、初級と中級に分かれて、作文をしてもらいました。

初級：テキスト第14課「ゆめいなおてらです」15課「かわいい！」を使用

中級：テキスト Unit 07「操作が簡単で、使いやすいんです。（いい物を人に勧める）」を使用

### 2限

初級発表テーマ：買い物

中級発表テーマ：自分の持っている物の中で、特に気に入っているものの紹介

講師の感想：お気に入りのものに関する発表では、スマホに関するものが多くみられましたが、安価でもお気に入りのシャープやポーチ、リュックなどについて、その使い易さを工夫してアピールしてくれた発表もあり、興味深く聞くことができました。

### 日本文化紹介

・歌舞伎：You Tube の動画「シネマ歌舞伎」の予告編を使って、歌舞伎について紹介しました。先日の反省を生かして、本日は短めの動画を選び、玉三郎の女形や勘三郎親子の連獅子の映像を見せるに留めました。

・「だるまさんがころんだ」「花いちもんめ」：留学生やチューターの日本人学生と共に「だるまさんがころんだ」と「花いちもんめ」をして遊びました。

	カンボジア	ミャンマー	ラオス
おはよう	ស្រាវជ្រាវ (アレンヌアスダ)	မင်္ဂလာနိုး (ミンガラノ)	ສະບາຍດີ (サバヤディ)
こんにちは	ស្រាវជ្រាវ (アレンヌアスダ)	မင်္ဂလာနိုး (ミンガラノ)	ສະບາຍດີ (サバヤディ)
ありがとう	អរគុណ (アウクン)	ကျေးဇူးတင်ပါသည် (ケイゾウテンパダツ)	ຂອບໃຈ (アウブイ)
さようなら	ស្រាវជ្រាវ (アレンヌアスダ)	အေးအေး (アエ)	ລາກ່ອນ (ラカオン)

各国語の紹介



歌舞伎の紹介



集合写真

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

（講師を務めてくださった大学院生によるレポートを基に作成しました）

## -学外研修

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、長期休暇中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として実施しました。日本をより多角的に知ってもらうために、教室での学習だけでなく、学外の施設の見学も行いました。本報告では、その見学内容を紹介します。

### （1）立川防災館

日時：2月1日（金）

見学時間：13時45分～16時15分

参加者：交換留学生10名、日本人学生6名、教員4名

立川市にある東京消防庁の立川防災館を見学しました。はじめに15分ほどのガイダンスを受けたあと、応急救護訓練、消火訓練、煙体験、地震体験の順に、インストラクターの案内に従って体験しました。

応急救護訓練では、AEDの操作方法や胸骨圧迫の方法など、応急救護の手順と方法について学びました。慣れない動作に戸惑いながらも、参加者全員、真剣に取り組みました。

続く消火訓練では、消火訓練室が改修中のため、模擬消火器による訓練となりました。消火器の使い方を学びました。

模擬消火器を使って、消火器から出る空気を目標に当てる練習をしました。



応急救護訓練の様子



消火訓練の様子

煙体験では、実際に煙が充満した建物内を、煙を吸い込まないように姿勢を低くして移動しながら、建物の外に脱出する体験をしました。姿勢が高いとアラームが鳴る仕組みとなっており、インストラクターから低い姿勢を保つように、何度も注意を受けていました。煙で周囲が見えない状況になるので、中には逆走する学生もいました。煙の恐ろしさと、パニックに陥ることなく冷静に行動することの大切さを学びました。



煙体験室での説明の様子

最後の地震体験室では、関東大震災など過去に発生した地震の揺れを体験しました。巨大地震の揺れの大きさを体感すると共に、地震による落下物からの身の守り方などを学びました。



地震体験の様子

館内にはこの他に自由体験コーナーが多数設置されており、災害時の対応について多角的に学ぶことができました。

また、今回の見学では、煙体験や地震体験など、一度実際に体験することで、非常時の落ち着いた行動につながることを学びました。



本学に戻った際の集合写真

## (2) 武蔵野クリーンセンター

日時：2月8日（金）

見学時間：9時30分～11時20分

参加者：交換留学生9名、日本人学生5名、大学院生（ラオス）1名、研究生（ラオス）1名、教員4名

立川防災館の見学の翌週に、武蔵野市にある武蔵野クリーンセンターを見学しました。この施設では、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみの処理を行っています。はじめに、武蔵野クリーンセンターのスタッフの方から、この施設全体やごみ処理の流れなどについて説明していただきました。

続いて、見学コースに従って、中央制御室、可燃ごみピット、ガスコージェネレーション、焼却炉室、蒸気タービン発電機、蒸気復水器、灰ピット、不燃・粗大ごみ選別機などを見学しました。

この施設が災害時のエネルギー供給拠点としての機能を持つこと、ごみの燃焼時に発生する高温・高圧の蒸気を利用した発電機を備えていること、燃やさないごみも破碎と選別によって資源になるものはリサイクル工場に運ばれること、それ以外のごみは全て燃やすごみとして完全燃焼させ出てきた灰は別の工場でエコセメントになること、このような取り組みにより廃棄物はほとんど出ないことなどを学びました。

最後に、生ごみ堆肥を利用して野菜を栽培している屋上の「ベジタブル・ガーデン」を見学しました。写真からも分かる通り、非常に寒い中での見学となりました。



武蔵野クリーンセンターのスタッフから説明を受ける参加者



ガスコージェネレーション見学の様子



ベジタブル・ガーデン見学の様子

留学生たちは、ごみ焼却時の蒸気を利用した発電システムや、灰までリサイクルできることなど、環境に配慮した取り組みに高い関心を示していました。また、東南アジアでもごみ処理は深刻な問題なので、自分の国にもこのようなごみ処理施設があると良いなどの意見が出ました。



武蔵野クリーンセンター前での集合写真

最後になりましたが、今回の見学についてご協力くださった立川防災館と武蔵野クリーンセンターのスタッフの皆さまに、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

## -日本文化体験

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、長期休暇中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として、日本語講座、学外研修、日本文化体験などを実施しました。今回はそのうち、日本文化体験プログラムについて紹介します。

冬季プログラムの日本文化体験プログラムとして、（１）折り紙、（２）茶道、（３）着付け、（４）ホームビジットを実施しました。各体験プログラムの詳細は、以下の通りです。

### （１）折り紙

日時：2月12日（火）

見学時間：13時～15時30分

参加者：交換留学生10名、研究生1名、日本人学生1名

このプログラムは、本事業のコーディネーターである寺井の指導により実施しました。参加者全員に、比較的簡単な折り紙の折り方を示したプリントと折り紙を配布し、各自好きな折り紙作りに取り組んでもらいました。折り紙の手が止まって寺井コーディネーターに助けを求める学生もいましたが、中には難しい折り紙に挑戦し、立派な作品を完成させた学生もいました。



折り紙に取り組む様子



留学生たちが作った折り紙

### （２）茶道

日時：2月15日（金）

見学時間：9時30分～11時20分

参加者：交換留学生8名

茶道体験は、本学の表千家茶道部に協力していただき、実施しました。はじめに、部長より茶道とその歴史について、イラストを使って説明していただきました。



表千家茶道部部长による説明の様子

続いて、お茶席を用意してくださり、茶菓子とお茶をいただきました。また、茶道具や掛物、花入、香合、茶器などの説明をしていただき、お茶を点てる体験もさせていただきました。



一服いただく留学生たち  
(左からラオスのティップワンさん、ミャンマーのスーウィンモンさん、  
カンボジアのチャントラーさん)



点茶体験の様子  
(左からカンボジアのクンティップさん、ラオスのナパーポーンさん)

茶道部の皆さんには、同じ学生という立場から指導していただき、留学生にとっても多くの刺激を受けた体験となりました。

### (3) 着付け

日時：2月15日(金)

見学時間：13時～16時

参加者：交換留学生 10名

日頃から本学の留学生を支援して下さっている留学生支援の会の方々に着付けをしていただき、実施しました。



振袖と紋付き袴を身にまとった留学生たち

寒い中の着付け体験となりましたが、留学生たちはそれぞれにポーズをとって、元気に写真を撮り合っていました。参加後のアンケートからは、とても楽しい体験になった反面、時間が短かった、着物についてもっと知りたかったなどの意見が寄せられました。いただいた意見は今後のプログラム改善に繋げていきたいと思います。

#### (4) ホームビジット

日時：3月2日（土）

参加者：交換留学生 10名

業者に委託し、10名の受入学生を2名ずつ5つのグループに分けて実施しました。このプログラムは、外国人との交流に関心のある一般のご家庭を訪問し、準備も含めて昼食を共にしながら、ゲームやカラオケなどをしてホストファミリーと交流するプログラムです。短い滞在時間ですが、日本人の暮らしを垣間見ることができ、お互いのことについて親密に言葉を交わした経験は、忘れられないものとなったようです。



ホストファミリーとの食事を楽しむミャンマーのスーウィンモンさん（左）とアウンミヤツさん（右）

今回の日本文化体験では、表千家茶道部や留学生支援の会など、多くの方々のご協力により実施することが出来ました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

## - 1 Day インターンシップ

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、長期休暇中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として実施しました。本報告では、そのうち 2 回実施した 1Day インターンシップについて紹介します。

この 1Day インターンシップは、本学展開力ロシアのコーディネーターである新井特任教授に調整していただき、本学で実施している他の展開力事業と合同で行いました。

### （1）ソニー本社

日時：2 月 5 日（火）

実施時間：14 時～16 時 30 分

参加者：留学生 23 名、日本人学生 3 名、日本人教務補佐員 1 名、教員 4 名

本学で実施している 4 つの展開力事業の受入学生から 23 名が、1 Day インターンシップとしてソニー本社を訪問しました。ソニー本社到着後、会議室にて新井特任教授によって、ソニーの歴史や企業理念などについて、ご自身のソニーでの勤務経験を踏まえて、平易な英語で話していただきました。講義では、ソニーがグローバルに事業を展開している多国籍企業であること、また様々な業種で幅広く事業を展開しているグローバル企業であること、そして広くエンターテインメントを提供する企業であることなどを学びました。

そのあと、1 時間半ほどかけて、カメラ、オーディオ、ゲーム、医療など様々な分野でソニーが提供している商品やサービスの具体的な事例に触れながら説明を受けました。参加学生たちは、ソニーという会社名は知っていても、ソニーが提供する商品やサービスの



新井特任教授によるソニーについての講義の様子



ソニー本社見学後の展開力 ASEAN の集合写真

全体像を知る学生は少なく、実際に商品やサービスに触れてみて、その技術力の高さや分野の広さに驚く学生が多くみられました。ソニーという会社について、より深く知る良い機会となりました。

## (2) 日立建機・土浦工場

日時：3月27日（水）

実施時間：13時20分～15時40分

参加者：留学生12名、日本人教務補佐員1名、教員1名

本学で実施している展開力事業の受入学生から12名が、1 Day インターンシップとして油圧ショベルをはじめとする建設機械の製造、販売、レンタル、アフターサービスを行っている日立建機の土浦工場を訪問しました。工場に到着後、工場内の会議ホールにて、人事部の方より日立建機の概要と一大製造拠点として重要な役割を担っている土浦工場について、また社会貢献の取り組みなどについて説明を受けました。

そのあと、ホールに隣接しているソリューションプラザにおいて、日立グループやビジネスパートナーの技術を融合し安全性や生産性の向上などお客さまの課題解決を行う日立建機の「ソリューション・リンケージ」の取り組みを説明するビデオを見ました。その取り組みの一環である鉱山における超大型ダンプトラックの自律運転の性能を学ぶための操縦体験や、VRによる超大型油圧ショベルの活躍する作業現場の仮想体験なども行いました。



日立建機の人事部担当者様による説明の様子



超大型ダンプトラックの操縦体験をする  
ラオス人留学生のカムラーさん



VR体験をするロシア人留学生

そのあとソリューションプラザを出て、2つのグループに分かれ、日本初の純国産油圧ショベル「UH03」の前での記念撮影や、大型・中型の油圧ショベル組立ラインなど、実際に油圧ショベルが製造される過程を見学しました。工場内の見学は、カートに乗って組立ラインを移動しながら行われました。このような製造工程を見学するのは初めてだという留学生が多く、機械化された部分と人の手で行う作業の違いなどについて質問しながら、熱心に見学していました。また、工場内の騒音が外部に漏れないように高い塀で周りを囲むなど周辺環境への配慮も行っている点に強い感銘を受けていました。

見学後はホールに戻り、人事部の方と質疑応答を行いました。参加者からは、ミャンマーやラオスなど自分の国にも拠点を設けてほしいなどの意見が出たり、油圧ショベルの販売価格や競合他社との相違点や企業が求める人物像などについて質問が出たりしました。本事業の相手国であるASEANの3国では建設工事が盛んに行われていることもあり、留学生たちの関心がとても高く、充実した研修となりました。



日本初の純国産油圧ショベルをバックに撮った  
参加者全員の集合写真



ソリューションプラザのディスプレイ前で撮った  
展開力 ASEAN の参加者たち

最後になりましたが、今回の1Dayインターンシップでは、展開力ロシアのコーディネーターである新井特任教授をはじめ、ソニーや日立建機のご担当の皆さまに大変お世話になりました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

## ②冬季プログラム（2019年度）

### -概要

長期受入学生を対象に、冬学期中の日本語学習の継続と、学生相互の交流を目的として冬季プログラムを実施しました。実施期間や内容等は以下の通りです。

1. 実施期間： 2020年2月

2. プログラム日程：

日付	内容
2月10日（月）	日本語講座（8:30-11:40）
2月12日（水）	茶道体験（13:30-15:30）
2月13日（木）	日本語講座（8:30-11:40）
2月14日（金）	日本語講座（8:30-11:40） ホームビジットオリエンテーション（11:40-12:30）
2月15日（土）	ホームビジット
2月17日（月）	日本語講座（8:30-11:40） サントリー工場見学（12:10-14:45）
2月18日（火）	日本語講座（8:30-11:40）
2月19日（水）	日本語講座（8:30-11:40）
2月20日（木）	日本語講座（8:30-11:40） 着付け体験（13:00-16:00）
2月21日（金）	日本語講座（8:30-11:40） 府中市立学校給食センター見学（10:00-12:30）

日本語講座 | 本学大学院で日本語を研修している院生や修了生を講師として実施しました。また、各国語を学ぶ日本人学生もチューターとして参加しました。

学外研修 | サントリー〈天然水のビール工場〉東京・武蔵野と府中市立学校給食センターで実施しました。

日本文化体験 | 茶道、着付けの体験、ホームビジットを実施しました。茶道体験は、本学表千家茶道部にご協力いただき行いました。また、着付け体験は本学の留学生支援の会にご協力いただきました。

### 3. プログラム参加学生

長期受入 ISEP 生 10 名 (ミャンマー4 名、ラオス 5 名、カンボジア 1 名)

世界展開力強化事業 (ASEAN) コーディネーター

寺井淳一記

## -日本語講座

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、冬学期中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として実施しました。本報告では、そのうちの日本語講座について紹介します。

本講座の講師として、昨年度講師を務めていただいた井澤先生と本学で日本語教育について研究している王先生、計 2 名にお願いしました。本講座が対象としたのは、本事業で受け入れているミャンマー、ラオス、カンボジアからの交換留学生 10 名でした。日本語の習熟度に大きな差が見られたため、クラスを初級と中級に分けて実施しました。また、参加学生の理解を助けるため、交換留学生には各国語を専攻する日本人学生をチューターとして配置しました。

テキストとしては、以下の 2 冊を使用しました。

初級：独立行政法人国際交流基金編著. 2013.『まるごと：日本のことばと文化 入門 A1』三修社.

中級：秋山信子・坂本舞著. 加藤早苗監修. 2012.『Weekly J: 日本語で話す 6 週間 book1』凡人社.

授業の構成は、1 限（8:30-10:00）にテキストのテーマに沿ってチューターと共に発表内容を日本語で作成し、2 限（10:10-11:40）の冒頭でそれを発表、残りの時間に日本文化を紹介するというものでした。以下に、7 日間の取組内容を担当講師の報告を交えて紹介します。

1 日目（2 月 10 日）

### 1 限

- （1）オリエンテーション
- （2）自己紹介（名前、出身国、出身地など）
- （3）初級と中級に分かれ、発表内容の作成

初級：テキスト第 3 課「どうぞよろしく」第 4 課「かぞくは 3 人です」を使用

中級：テキスト Unit 01「がんばりますので、よろしくお願ひします。（自己紹介をする）」を使用

### 2 限

発表テーマ：自己紹介（初級・中級：家族、休日の過ごし方）



授業の様子



発表の様子

井澤先生の感想：

初級のカンボジアの学生はただ一人でしたが、最初に発表をしてもらったところ、堂々と教壇に立って話してくれました。パートナーの日本人学生の助けを借りながらも、他の人の発表にも積極的に質問をしてくれ、たいへん頼もしく思いました。日本人学生にも自己紹介をしてもらいましたが、留学体験について、その国の留学生から活発に手が上がり、感想を尋ねられていたのが良かったと思いました。

王先生の感想：

自己紹介を通じて、皆さんの趣味や国の状況が少しわかるようになりました。2週間の授業がもっと楽しみになりました。

## 日本文化紹介

正月にちなみ、福笑いやかるた、けん玉など、日本の伝統的な遊びをしました。



福笑いをしている様子

井澤先生の感想：

福笑いをする前に、顔の部位の名称を確認しました。自己紹介スピーチに時間がかかり、こちらは短い時間となりましたが、日本のお正月の遊びにいろいろ親しんでもらえました。

王先生の感想：

福笑いなどの遊びを通じて、皆さんに日本の伝統的な文化、特に正月の雰囲気を感じてもらい、また自分にとっても新鮮な体験になりました。



すごろく

「日本で何がしたい」など相互理解を助ける質問が升目に書かれたすごろくで日本人のチューターと留学生が遊びました。「日本語で覚えた歌を歌う」という升目に止まった学生は恥ずかしがりながらも覚えた歌を披露していました。



すごろくをしている様子

井澤先生の感想：

日本語双六は、日本語学習者のために考えられたオリジナルのものです。互いに仲良くなれるような楽しい内容で、歌のところは、「やばい、やばい」と言いながら、若いだけに乗りがよく歌を披露し、とても盛り上がっていました。

王先生の感想：

外国人として、日本の年中行事やお祭りを自分なりの理解で紹介しました。たった 30 分の授業ですが、資料の準備などで 10 時間以上かかりました。最初は緊張しましたが、皆さんがまじめに聞いてくれて、うれしく感じました。

3 日目（2 月 14 日）

## 1 限

授業冒頭で、井澤先生が日本でのバレンタインについて説明し、留学生に母国でのバレンタインの習慣について聞きました。それから、平仮名と片仮名の成り立ちについて説明し、クイズ形式で漢字から派生した仮名を覚えてもらいました。また、昨日の文化紹介で出てきた神社と寺の違いを、写真を見せながら鳥居の有無で確認しました。

その後、初級と中級に分かれて、テキストを学んだ後に発表の準備をしました。

初級：テキスト第 7 課「ハヤが 3 つあります」第 8 課「いいハヤですね」を使用

中級：テキスト Unit 07「操作が簡単で、使いやすいんです。（いい物を人に勧める）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：自分の家の紹介

中級発表テーマ：自分の気に入っている物の紹介（機能、使い



発表の様子

方、特徴、気に入っているポイント)

井澤先生の感想：

家の紹介では、南国らしい気持ちの良さそうな家の様子を教えてくださいました。自分のお気に入りの紹介では自分のスマホの説明になりがちですが、工夫して自分のかばんや筆記用具の良さを紹介してくれる人たちも多く感心しました。

王先生の感想：

自分の気に入っているものの紹介で、皆さんの思い出があるものを聞いて、感動しました。

## 日本文化紹介

### 書道

はじめに井澤先生が「とめ・はね・はらい」を説明し、各自好きな文字を半紙に書きました。



留学生の作品

井澤先生の感想：

基本的な筆運びの練習をしてから、それぞれ好きな言葉を選んで、作品作りに臨みました。中にはすでに書道を習っている学生もいて、流石に上手でした。一方、左利きで初めて筆ペンを持ち、苦労している学生も見受けられました。早く完成した学生はことわざかるたを遊んで楽しみました。

王先生の感想：

非漢字圏の皆さんも自分なりの習字スタイルを持っていて、素晴らしい作品ができました。

4日目（2月17日）

## 1限

授業冒頭で、井澤先生が東京国立博物館について、開催予定の着物の企画展も併せて紹介しました。

その後、初級と中級に分かれて、テキストで学んだ後に発表の準備をしました。

初級：テキスト第9課「なんじにおきますか」を使用

中級：テキスト Unit 05「漢字の読み方がわからないんですが…。」

（方法をたずねる・わからないことを聞く）」を使用

## 2限

初級発表テーマ：私の一日のスケジュール

中級発表テーマ：日本で生活して気になっていること



発表の様子

井澤先生の感想：

日本語の使い方のわからないところを、アルバイトの経験などから語ってくれました。なぜ、日本人は「すみません」とすぐ言うのか、なぜバイト先では午後でも「おはようございます」と挨拶するのか、また、若者用語の「えぐい」の意味など、身近なところで気が付いた日本語の疑問を挙げてくれ、興味深くこちらも考えさせられました。日本人の学生の若い感覚がとても参考になりました。

王先生の感想：

日本の「すみません」の意味は場面によって違うので、理解できないことが多いという意見を聞きながら、外国人として私はすごく共感できました。また、皆さんは日本文化と接触するとき、よく観察していることも素晴らしいと思いました。

## 日本文化紹介

日本の観光地

王先生が、観光地と言えない場所でも、知的好奇心を満たすことによって得られる充足感、未知との遭遇による自己理解の深化をもたらす旅行があることを説明しました。具体的には、沖縄を例



王先生による授業の様子

に、首里城や美ら海水族館のような観光地だけではなく、三線、琉球舞踊、方言、料理などを紹介しました。そのほか、お勧めの観光地として、五能線や神戸などを紹介しました。

日本の歌「幸せなら手をたたこう」

日本語の歌を覚えながら、基本的な文型の学習もできるように選曲しました。YouTube を利用して歌の意味を確認しながら、練習をしました。



みんなで歌を歌っている様子

井澤先生の感想：

「う／よう」の意向形や身体の部位の名称を確認しながら「幸せなら手を叩こう」に導入しました。単純な繰り返しが多いので、動画を見ながら楽しそうに振りを真似て歌っていました。

王先生の感想：

日本の観光地の授業を準備する際に、自分の日本での生活をもう一回整理できて、よかったと思います。

5日目（2月18日）

### 1限

授業冒頭で、前日の発表で出た「えぐい」について、井澤先生が説明を加えました。また、アルバイトの現場などで24時間使用される「おはようございます」について補足しました。

その後、初級と中級に分かれて、テキストで学んだ後に発表の準備をしました。



チューターや日本語講師とともに発表の準備をしている様子

初級：テキスト第 10 課「いつがいいですか」第 11 課「しゅみはなんですか」を使用

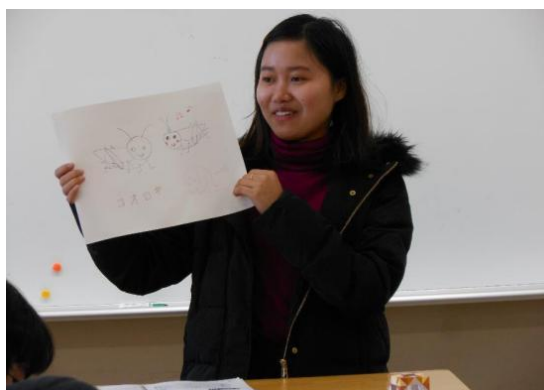
中級：テキスト Unit 09「子どものときに、はやっていた遊びは、ローラースケートです。（子どものときのことについて話す）」  
を使用

## 2 限

初級発表テーマ：自分の趣味

中級発表テーマ：子どものときにはやっていたこと、遊びなど

発表の様子



チューターや日本語講師とともに発表の準備をしている様子

井澤先生の感想：

初級の学生の趣味は読書で、今も持ってきたカンボジアの本を読んでいるそうです。子どもの時に踊りがうまいと褒められて嬉しかったと話したラオスの学生に、「踊って！」と声が掛かりました。ひるむことなく、もう一人と一緒に早速音楽に合わせて踊りを披露してくれました。子供の時から民族舞踊が身についているのを羨ましく思いました。

王先生の感想：

皆さんの子どものときにはやっていたこと、遊びを聞きながら、皆さんのかわいさ、面白さをたくさん感じました。

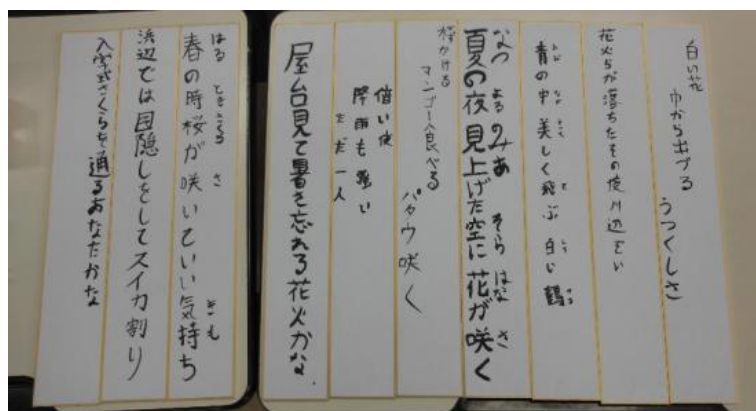
## 日本文化紹介

俳句

はじめに、井澤先生が俳句について、文字数のこと、季語や情景や気持ちを詠い込むことなどを説明し、各自で俳句を詠んでもらいました。その後、いくつか詠んだなかから 1 句選んで、短冊に筆ペンで清書し、作品として提出してもらいました。

井澤先生の感想：

俳句を詠むときに古い日本語や切字を使うなどの工夫を凝らしている学生も見受けられて感心しました。



留学生の作品

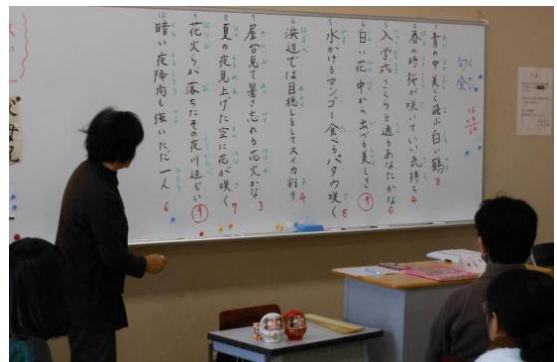
王先生の感想：

俳句はかなり難しいと思いますが、皆さんは短時間で、とてもよい俳句を作りました。特にマンゴーという東南アジアの風物詩を描いた俳句は印象深かったです。日本の伝統文化と異文化の素敵な融合だと思いました。

6日目（2月19日）

## 1 限

授業冒頭で、井澤先生が作文集を作るので、これまで発表した内容から一つ選んでおくよう学生たちに指示しました。続いて、前日に詠んだ俳句を作者がわからないように講師が板書し、句会のような形式で、各自好きな作品を4つ選んでもらいました。高得点だった作品には、「白い花 中から出づる 美しさ」「花火らが 落ちたその夜 川辺ぞい」などがありました。



句会の様子

その後、初級と中級に分かれて、テキストで学んだ後に発表の準備をしました。

初級：テキスト第15課「かわいい！」を使用

中級：テキスト Unit 13「帽子をかぶったまま、部屋に入ってはいけません。（国のルールやよくないとされていることについて話す）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：先週の買い物

中級発表テーマ：自分の国のルールやマナー、してはいけないこと、しなければならないことなど



発表の様子

井澤先生の感想：

句会では、初級の学生の作品が高得点を集めて感心されていました。

発表で、ミャンマーの学生たちが挙げた決まりごとが、霊や目に見えない悪いものに取り付かれないように守らなくてはいけ

ないことというのが印象的でした。現代の日本では忘れられてしまった感覚だと感じました。

王先生の感想：

ほぼ 2 週間の練習で、皆さんの発表は徐々に上手になっていると感じました。また、ミャンマーの学生の発表にあった家に戻るときに「入ってください」と言わないというマナーはとても面白いと思いました。

作文集の準備

井澤先生が原稿用紙の書き方について説明し、学生たちに清書をして、作文として提出してもらいました。

7 日目（2 月 20 日）

## 1 限

初級と中級に分かれて、テキストで学んだあとに発表の準備をしました。

初級：テキスト第 17 課「たのしかったです」を使用

中級：テキスト Unit 11「頑固なところが似ています。（身近な人を紹介する）」を使用

## 2 限

初級発表テーマ：休日の過ごし方

中級発表テーマ：身近な人の紹介



7 日間このプログラムで使用了教室



発表の様子

井澤先生の感想：

自分の家族や友人を紹介してくれました。兄弟が多く、仲が良い様子が窺えました。中には、短気で頑固な自分と違って妹は良い性格だと話した学生がいて、その友人がその通りと認めていたのが微笑ましく感じられました。

王先生の感想：

皆さんから家族や幼馴染を紹介してもらい、感動しながら、とても面白いと思いました。

## 日本文化紹介

日本の歌「翼をください」

「～がほしい」「～たい」の文型と共に導入、YouTube の動画も見ながら一緒に歌いました。

文楽

井澤先生が YouTube の動画を使って、文楽の紹介をしました。



文楽について学んでいる様子

歌舞伎

井澤先生が YouTube の動画「白雪姫」を使って、歌舞伎について紹介しました。

絵本

井澤先生が先日持参した“だるま”に因んだ絵本『だるまちゃんとなぐちゃん』の読み聞かせをしました。そして、“だるま市”というだるまのお祭りが深大寺で行われることも寺井先生から紹介がありました。このように日本人に“だるま”が親しまれていることを示しました。

日本の遊び

“だるま”に関連して「だるまさんがころんだ」や「花いちもんめ」を、教室を広くして、留学生や日本人チューターと共に遊びました。

井澤先生の感想：

文楽は人形遣いにより人形の表情まで変えられること、太夫が女性の声も表すことに感心していました。歌舞伎の紹介には、物語はお馴染みの「白雪姫」を歌舞伎化したものを選びました。美しい



「花いちもんめ」をしている様子

真女形や立ち役が演じる女形、見得や海老反り、飛び六方などの歌舞伎独特の演技を楽しみながら見せることができました。最後の教室を広く使った遊びもなかなか盛り上がりました。

素直で真面目な ASEAN の留学生たちと協力的な日本人学生のみなさん、王先生のお蔭で、和やかな雰囲気の中、日本語を話すことを多く経験し、日本文化に親しんでもらえた充実した 7 日間だったと思います。寺井先生にもたいへんお世話になり誠に有難うございました。

王先生の感想：

動画を見ながら、日本の文楽や歌舞伎を理解できて、楽しい時間でした。

授業の終わりに、留学生全員の写真も添え、俳句も加えて完成した作文集を参加者全員に配りました。



日本語講座に参加したみなさんで記念撮影

以下は、参加した留学生の感想（抜粋）です（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

・休み中にも日本語を勉強することができ、良い日本語の練習になりました。それに日本語の勉強だけでなく、日本の昔のゲームやその他の色々なことも学べたので、とても楽しかったです。

・自分が伝えたいことを伝えられたので、とても良かったと思います。このクラスはとても自由で、皆を自分の家族のように感じられました。とても楽しかったです。

・東南アジアの友達と話したり、他の日本人の友達と話したり、また勉強したりして、いろいろな経験をすることができました。良いプログラムだと思いました。

・日本の歌や日本の文化に関して、よく分かるようになったので、とても良いと思います。

ほかの国の友達と一緒に仲良くできたのは、良い経験になりました。

・特に良かったことは、教室で日本語を勉強したことです。その理由は、毎回日本語を勉強したあとに、発表や質問があったからです。そのおかげで、自分の日本語が上手になった気がします。

・このプログラムの良いところは、日本語と日本文化を学べることです。このクラスでは、私が学んだ他のクラスとは大きく異なります。このクラスでは、日本人学生と一緒に日本語を学びます。そのように日本人学生が教えるという方法が気に入っています。特に、娯楽、伝統的なお祭り、俳句などの日本文化を学びました。私は幸せな気持ちになり、日本文化をもっと良く理解することができました。

・日本語を勉強した後で、いつも発表をしました。それは良いと思います。

・ただ勉強するだけでなく、日本の文化や遊びを体験し、皆と仲良くなれたことが良かったと思います。普通のクラスより気楽に勉強できたと思います。

上記のように、各国言語が話せるチューターを配置したこと、日本語学習後に発表機会を設けたこと、日本文化を紹介し体験したこと、これらの工夫により、参加者が相互に会話する機会が増え、各人の日本語能力や日本理解の向上を図ることができました。

この場を借りて、本プログラムにご協力くださった日本語講師のお二方、チューターの皆さまに深く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

（担当講師の報告を基に作成しました）

## -学外研修

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、冬学期中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として実施しました。日本をより多角的に知ってもらうために、教室での学習だけでなく、学外の施設の見学も行いました。本報告では、その見学内容を紹介します。

### （１）サントリー〈天然水のビール工場〉東京・武蔵野ブルワリー

日時：2月17日（月）

見学時間：12時10分～14時45分

参加者：交換留学生10名、日本人学生3名、教職員4名

府中市にあるサントリー〈天然水のビール工場〉東京・武蔵野ブルワリーを見学しました。はじめに10分ほどサントリーのビール作りを紹介するビデオを見ました。その後、施設内を移動しながら、原料である天然水や麦芽・ホップについて実際に手に取ったり、においをかいだりしながら学び、仕込釜・濾過槽などの仕込設備を間近で見学しました。



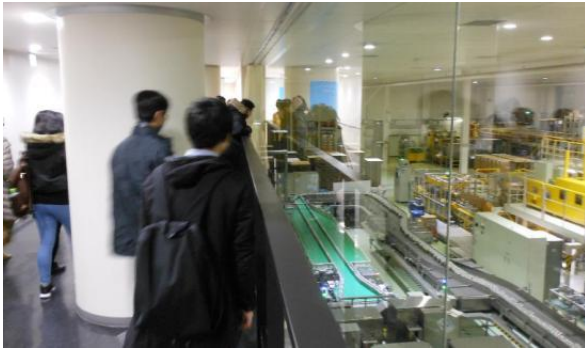
ビール作りに関するビデオを見ている様子



麦芽の説明を受けている様子

最後に、ビールを缶に詰めるパッケージングのラインを見学しました。また、パネル展示により、ビールの約9割を占める天然水を巡る環境活動についても学びました。

見学後は、希望者に対し、ビールの試飲が実施されました。ビールの泡による「神泡アート」も体験しました。



缶に詰める工程を見学している様子



見学ルート出口での集合写真

参加した留学生の感想（抜粋）は以下の通りです（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

- ・今回は初めてビール工場を見学することができて、とてもワクワクしました。サントリーのビールの製造プロセスを見られて良かったです。
  - ・ビールを初めて飲んでみました。ビールを作る方法がよく分かりました。
  - ・ビールを作る方法について分かりました。見学をしたあとで、知らないことが分かって良い経験になりました。
  - ・私は初めてブルワリーを見学しました。ビールを作るために水を手に入れる方法を紹介したビデオを見て驚きました。私はサントリーのビールの製造方法だけでなく、その味も好きです。日本の工場について学ぶことができる良いプログラムだったので、すべての学生が楽しんだと思います。
- 工場見学が初めてだという留学生もおり、日本の製造現場を見せる良い機会を提供できました。今回の見学を通して、日本のモノづくりに対する姿勢や品質管理などを学びました。特に水へのこだわりとその水を育む森を育てる環境活動に感銘を受けた学生が多かったようです。

## (2) 府中市立学校給食センター

日時：2月21日（金）

見学時間：10時～12時30分

参加者：交換留学生 10名、日本人学生 3名、教職員 3名

本学の近くにある府中市立学校給食センターを見学しました。到着後、簡単に施設の説明を受けてから、調理施設などを見学しました。また、調理器具を手にとってみたり、エアシャワーを体験したりしました。



見学路から調理室を見学している様子



煮炊き釜での調理を体験している様子



調理器具について説明を受けている様子



エアシャワーを体験している様子

各施設の見学を一通り終えた後、このセンターや給食について紹介するビデオを見ました。ビデオを見ている間に、センターの方々が後ろで給食の準備をしてくれ、本日中学校に提供された給食を試食しました。



ビデオを見ている様子



給食の試食をしている様子



府中市立学校給食センター前での集合写真

参加した留学生の感想（抜粋）は以下の通りです（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

- ・市内の学校への給食を作る手順を学ぶことができました。そして、給食を食べてとても美味しかったです。
- ・食事は衛生的だし、栄養が豊富で、そしてとても美味しいです。
- ・実は2年前に見学したことがあり、今回は2回目でした。作業スタッフは今回も一所懸命働いていました。また今回も

給食がおいしかったです。

・給食を食べた経験はありますが、給食を作る施設を見学したことはありませんでした。この施設はとても綺麗です。食べものもちゃんと考えて作っていることが分かったので、すごいと思いました。食べものは美味しいだけでなく、体にも良いです。

・私の国にはこのような施設はありません。学校の外に出なくても、健康的で安い食べ物が手に入るのは、学生にとって良いことだと思います。カンボジアがこのようにできることを願っています。

・小学生のための食べ物がどのように作られているか、そして彼らが子供の健康についてどのように考えているかを学びました。食べ物も美味しかったです。私のお気に入りパンでしたが、パンもそこで作られているのか尋ねるのを忘れてしまいました。

・いろんな料理をたくさん作ることができてすごいです。作り方の順番を見られて良かったです。その一つのメニューを食べましたが、おいしかったです。

以前、本事業の短期プログラムで来日した際に、今回の給食センターを見学したことがある留学生が数名おり、互いに教え合う場面が見られました。日本の給食制度や衛生管理、健康への配慮など、多くのことを学ぶことができた見学でした。

最後になりましたが、今回の見学についてご協力くださったサントリー〈天然水のビール工場〉東京・武蔵野ブルワリーと府中市立学校給食センターのスタッフの皆さまに、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

## -日本文化体験

世界展開力強化事業（ASEAN）・冬季プログラムの留学生対象プログラムは、冬学期中の日本語学習の継続と、留学生相互の交流を目的として、日本語講座、学外研修、日本文化体験などを実施しました。今回はそのうち、日本文化体験プログラムについて紹介します。

冬季プログラムの日本文化体験プログラムとして、（１）茶道、（２）着付け、（３）ホームビジットを実施しました。各体験プログラムの詳細は、以下の通りです。

### （１）茶道

日時：2月12日（水）

体験時間：13時30分～15時30分

参加者：交換留学生 10名

茶道体験は、本学の表千家茶道部に協力していただき、実施しました。はじめに互いに自己紹介をして、茶道における作法について教えていただきました。

続いて、お茶席を用意していただき、茶菓子とお茶をいただきました。お茶席は二席用意していただきました。また、茶道具や掛物、花入、香合、茶器などの説明をしていただき、お茶を点てる体験もさせていただきました。



表千家茶道部の方々による説明の様子



一服いただく留学生たち



お茶碗の拝見を学ぶ留学生たち



点茶を学んでいる様子



体験をサポートくださった茶道部のみなさんと記念撮影

茶道部の皆さんには、同じ学生という立場から指導していただき、留学生にとっても多くの刺激を受けた体験となりました。

## (2) 着付け

日時：2月20日（木）

見学時間：13時～16時

参加者：交換留学生 10名

日頃から本学の留学生を支援して下さっている留学生支援の会の方々に着付けをしていただき、実施しました。



振袖と紋付き袴を身にまとった留学生たち



振袖と紋付き袴を身にまとった留学生たち

寒い中の着付け体験となりましたが、留学生たちはそれぞれにポーズをとって、元気に写真を撮り合っていました。ファッションショーのようにポーズを取って歩く姿を撮影する場面も見られました。先に実施した茶道体験と合わせて、日本の文

化に実際に触れ、体験する良い機会となりました。

茶道と着付け体験に参加した留学生の感想（抜粋）は以下の通りです（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

- ・日本の文化、特に茶道と着付けを実際に体験できて楽しかったです。
- ・退屈だと思っていたのですが、実際は楽しく、茶道についてたくさん学ぶことが出来ました。
- ・ちょっと足が痛かったのですが、お菓子とお茶はとても美味しかったです。
- ・日本の文化についていろいろな経験が出来て楽しかったです。日本のお茶の準備について良く分かりました。着物を着るのもとても楽しかったです。
- ・日本文化といえば茶道や着付けはとても有名です。今回の体験は初めてではないですが、前回と違うところもありました。日本のお茶はちょっと苦いですが美味しいです。日本の着物はとてもおしゃれで綺麗です。
- ・茶道や着物などの日本文化が好きです。茶道ではお茶を飲む前に多くのステップを踏む必要がありました。少し複雑でしたが、私はそれらのステップが好きです。それから、着物を着ることができて本当に嬉しかったです。着物は本当に美しいです。着物は、それを着ている間、女性をより美しく、そして上品に見せます。私がソーシャルメディア（Facebook）に写真をアップロードしたら、多くのカンボジア人が興味を持ち、その美しさを称賛しました。

### （3）ホームビジット

日時：2月15日（土）

参加者：交換留学生 10名

業者に委託し、10名の受入学生を2名ずつ5つのグループに分けて実施しました。このプログラムは、外国人との交流に関心のある一般のご家庭を訪問し、準備も含めて昼食を共



ホストファミリーのお宅でたこ焼きを作る  
ミャンマーのメイテッパインチョーさん（左）とニラミットさん（右）

にしながら、ゲームやカラオケなどをしてホストファミリーと交流するプログラムです。事前に業者によるオリエンテーションを受け

て、当日は留学生たちだけでホストファミリーとの待ち合わせ場所まで行きました。短い滞在時間ですが、日本人の暮らしを垣間見ることができ、お互いのことについて親密に言葉を交わした経験は、忘れられないものとなったようです。

ホームビジットに参加した留学生の感想（抜粋）は以下の通りです（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

- ・日本人の家庭と一緒に日本料理を食べたり、たくさんラオスのことや日本のことを話したりしてとても良かったです。お父さん、お母さんは、これから私の日本人の両親になって、いつでも連絡してくださいと言ってくれたので、とても嬉しかったです。
- ・新しい日本人と会うチャンスをいただき、和食や食べ物を楽しみました。
- ・とてもよかったです。お母さんがたこ焼きを作ってくれたのでとても嬉しかったです。そして、一緒にラオスの伝統的な料理や、文化、ラオスと日本との関係について話すことができて楽しかったです。
- ・初めてのホームビジットでした。短い時間でしたが、日本とラオスのことについていろいろ話すことができて嬉しかったです。また、こんな体験をしたいと思っています。
- ・ホストファミリーはとてもフレンドリーでした。私は日本食と彼らとの会話を本当に楽しみました。地元の人たちと触れあい、その生活様式を見ることが出来て、嬉しかったです。
- ・ハワイの話をしたり飲んだりして楽しかったです。
- ・おいしい料理を食べてよかったです。日本語で色々なことを話したりゲームをしたりしました。とても楽しかったです。

今回の日本文化体験では、表千家茶道部や留学生支援の会など、多くの方々のご協力により実施することが出来ました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記